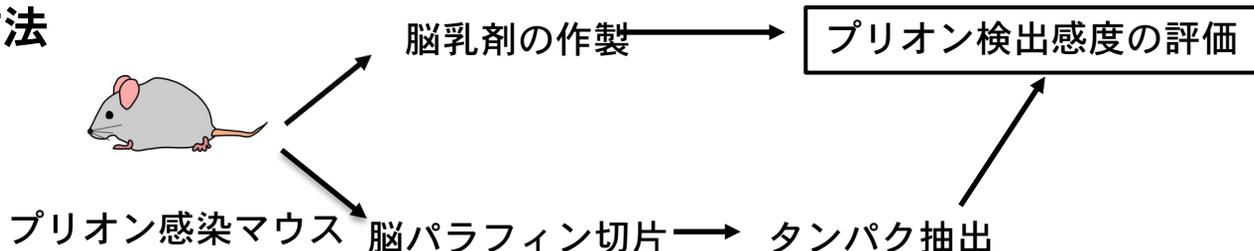


病理組織切片からの高感度異常型プリオンタンパク検出法の開発 ～プリオン病診断ガイドラインの改定～

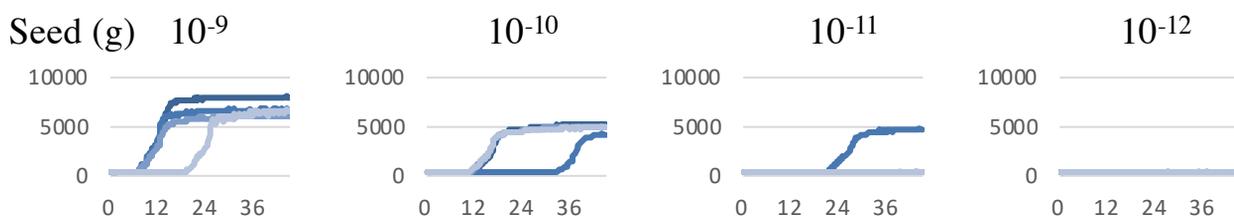
研究分担者： 長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 西田教行

方法

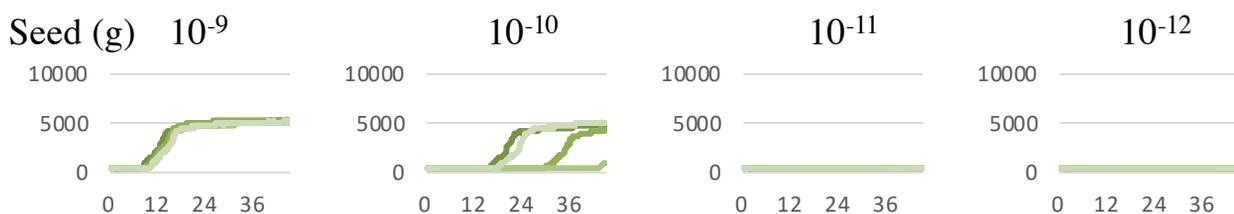


結果

脳乳剤 SD_{50} : 11.50 (protein)



パラフィン抽出サンプル SD_{50} : 11.25 (protein)



解説

1. プリオン感染マウスの終末期に解剖し、半脳から脳乳剤を、もう一方をホルマリン固定後にパラフィン切片を作成してタンパクを抽出した。
2. RT-QuIC法にてプリオンの検出を行ったところ、パラフィン切片からの抽出物でも固定していない組織（脳乳剤）とほぼ同程度の感度でプリオンの検出に成功した。
3. この方法を末梢組織にも応用することで、病理組織検体を用いた未発症キャリアの探索も可能になると考えられる。